

1 目指す学校

【教育目標】

- 1 積極的態度の養成…生徒の個性・特性を伸長させ、自発的・積極的に行動する態度を養う。
- 2 基礎的教養の把握…学力の充実とともに豊かな人間性を養い、社会に貢献できる人間力を身に付ける。
- 3 スポーツの振興…スポーツを通して体力の増強を図り、自尊心と他人と協調する精神を高める。

【スクールミッション】

「積極的態度の養成」「基礎的教養の把握」「スポーツの振興」を教育目標とし、予測困難な時代を生きぬく逞しい力を生徒に身に付けさせるため、学力・体力の基礎・基本を確実にする取組を行うとともに、すべての教育活動を通して、自発的に考え行動し、社会に貢献できる人間力を育成する。

《目指す学校》

- 授業を大切にしていし確かな学力を身に付け、希望の進路を実現できる学校
- 特別活動や部活動を充実させ、健康な心身と自他を尊重し協調性を育む学校
- 活気にあふれ帰属意識と誇りをもち、地域から愛される学校
- 社会に関心をもち、自ら課題を見つけ解決する力を高めることができる学校

【スクール・ポリシー】

(1) グラデュエーション・ポリシー

知識 技能	基礎学力	・読解力を基盤とし、知識・技能の基礎基本を身に付ける。
	計画力	・物事全体を見通して、計画的に行動できる。
	体力	・生涯にわたってスポーツに親しみ、活動の基盤となる体力を身に付ける。
思考力 判断力	課題発見・解決力	・自ら課題を見つけ、解決しようとするができる。
	論理的思考力	・知識、技能や情報を活用して、論理的に思考し判断することができる。
表現力	表現力	・自らの考えを、自分の言葉で表現することができる。
学びに向 かう力・ 人間性等	コミュニケーション力	・他者と意見を交えながら、協働することができる。
	行動力	・自発的、積極的に行動し、集中力をもって継続できる。
	社会性	・他人のために汗を流し、地域や社会に貢献できる。

(2) カリキュラム・ポリシー

- ・中等教育で学ぶべき内容を、しっかりと身に付けさせる。特に「学校で学ぶ」ことに主眼を置き、学習内容全般にわたって、全ての教科を広く学習できるようにする。
- ・1、2学年での類型化は最小限にして、3学年での選択科目で大学受験等に対応させる。
- ・特別活動や部活動を充実させ、計画力、課題解決力、学びに向かう力等を育成する。
- ・自ら課題を設定し解決していく探究的な学びを推進する。
- ・希望する進路を実現できるよう、キャリア教育を充実する。

(3) アドミッション・ポリシー

- ・授業を大切にしていし、集中して学習できる、精神力と計画性のある生徒
- ・自ら課題を見だし、将来に向けての夢をもって学校生活を送る、思考力と判断力のある生徒
- ・高校生だからできること、高校生でなければできないことを積極的に実践できる、行動力のある生徒
- ・他人のために汗を流し、地域や社会に貢献する意思があり、社会性のある生徒

2 中期的目標と方策

本校は、スポーツの振興を教育目標に掲げ、部活動を活発に行い大きな成果を出してきたが、学習との両立にやや課題があった。令和7年度より「進学指導研究校」に指定され、大学進学を目指す生徒の期待に応える授業力の向上を図り確かな学力を身に付けさせるとともに、継続的な学習習慣を定着させ、進路意識の向上を図る。スポーツを通じた心身の健全育成とともに、学習指導、進路指導、生活指導の充実を図り、バランスの取れた教育を推進する。

(1) 学習指導…教科が主体となって授業力を向上させる。

- ・ICT機器やAI、一人1台端末の活用を推進する。
- ・観点別評価の導入に伴う指導と評価の一体化を進める。
- ・教材や考查問題の共有化を図り、情報交換を密にして教科全体で授業力を向上させる。
- ・教員相互の授業見学や研究授業を通し、「指名制による授業研究」に参加し、授業改善を推進する。
- ・生徒の学力を分析し、学力伸長に向けた方策を教科で検討する。

- ・課題を発見したり探究したりする活動を取り入れ、生徒の主体性を伸長させる。
 - ・グループ学習や発表の機会等を通して、表現力や批判的思考力を育成する。
 - ・適度な学習課題や予習復習の奨励により、自宅学習を習慣化させる。
- (2) 進路指導…進路指導部が中心となって系統的な指導を行う。
- ・進路指導部が中心となり、3年間の進路指導計画に従って系統的な指導を行う。
 - ・3年間を見通した模試計画に従い、模試の実施と振り返り指導を全校体制で行う。
 - ・長期休業中、大学入学共通テスト後の講習は、進路指導部が統括し、教科が中心となって講座を設定する。
 - ・1年次「人間と社会」において、社会に目を向けさせ、自己の在り方生き方を考えさせる。
 - ・「総合的な探究の時間」において、計画的に探究活動を進める。
 - ・多様な生徒の進路希望に合わせ、就職や専門学校の情報や蓄積し提供する。
 - ・保護者との面談（二者または三者）を全学年で行い、家庭と連携した指導を行う。
- (3) 生活指導…基本的生活習慣を確立し、学習や進路その他、生徒自身が管理できる時間を確保する。
- ・遅刻を減らし、授業規律を保ち、授業を大切に学校生活を送らせる。
 - ・情報端末機器を有効に利用させ、規範意識を育成するとともに、自宅学習の時間を確保する。
 - ・学校行事、委員会活動や部活動において、生徒の主体性を伸長させる。
 - ・部活動において、短時間で効果が得られるような、合理的でかつ効率的・効果的な活動を推進する。
 - ・いじめ防止と体罰根絶に向けた取組を推進する。
 - ・自転車通学でのヘルメット着用を徹底し、法令順守やマナー向上を通して交通安全意識を高める。
 - ・防災訓練や生徒会活動を中心に、地域との連携を推進する。
- (4) 健康・保健指導…心身の健康管理とともに感染症対策を継続する。
- ・特別支援教育コーディネーター、各学年、養護教諭、SCの連携により、情報共有を促進する。
 - ・生徒支援委員会において、情報共有とともに、不登校、発達障害等での必要な支援策を講じる。
 - ・都の指針に基づき感染症対策を継続する。
 - ・スポーツを振興し、体力向上を図る。
- (5) 学校運営…企画調整会議と教科主任会議を核とし、経営企画室と分掌、教科の連携を強化する。
- ・定例の教科主任会議において進路指導の視点を加え、教科全体の指導力を向上させる。
 - ・分掌と学年の連携を強化する。
 - ・必要に応じて主幹会議を開催し、管理運営機能を補完する。
 - ・業務の効率化と削減を図り、会計年度任用職員を増員し、教職員のライフワークバランスを推進する。
 - ・ネットワークを有効活用し、生徒保護者への連絡、広報活動を効率化する。
 - ・経営企画室と分掌、教科が連携し、予算を適正に執行し、施設・設備の更新を最適化する。
 - ・校舎改築に関わる業務を、都と連携し計画通りに進める。

3 今年度の取組目標と方策

最重点目標 「基本的生活習慣の確立と学習・進路に対する意識の向上」

I 学習指導

目標 1、授業力の向上 2、基礎基本の定着 3、主体的学習意欲の向上 4、学習習慣の定着
方策

- ① ICT機器やAI、一人1台端末を積極的に活用し、生徒が主体的・対話的で深い学びを実践する。
- ② 観点別評価に伴い、教材の共通化や評価材料を増やす等、教科全体で指導と評価の一体化を進める。
- ③ 全ての科目で授業アンケートを組織的に実施し、生徒の状況に応じて授業を工夫する。
- ④ 教員相互の授業見学を各人が学期に1回以上、特に教科内での授業見学を積極的に行い、授業改善を推進する。
5教科は「指名制による授業研究」または指導教諭の模範授業に1回以上参加する。
- ⑤ 模試を利用し過去の問題に取り組みせるとともに、模試の振り返り指導を行い、基礎基本の定着を図る。
- ⑥ 英語検定の受験を積極的に推奨し、スコアアップと合格者増加に向けた指導を行う。
- ⑦ スタディサプリやオンライン英会話等を活用するなど、主体的に学ぶ態度と総合的な英語力を育成する。
- ⑧ 図書館の利用を高め、ビブリオバトルを組織的に実施し、読書活動を推進する。
- ⑨ 全学年で定期考査2週間前からの学習の記録を実施し生徒へフィードバックすることにより、自宅での学習（授業外の学習）習慣を身に付けさせる。

II 進路指導

目標 1、進路指導部を中心とした組織的な進路指導の実施 2、生徒の進路意識の向上

方策

- ① 進路指導部が作成した3年間を見通した指導計画に基づき、進路指導部と各学年が連携して進路指導に当たる。年内入試対応は全校体制で取り組む。年内の進路決定者に対する指導と、大学入学共通テストや一般受験に向けた指導とともに強化し、大学入学共通テストまでしっかり登校させる。
- ② 1、2年次の指導計画を充実させ、生徒と同内容を保護者へも情報配信し、保護者を巻き込み進路意識を啓発する。1年次からオープンキャンパス等に積極的に参加させるなど具体的な進路目標をもたせ、一般入試を視野に入れさせる。安易な進路選択に流れず、高い目標を目指して取り組ませる。
- ③ 3年間の模試計画に従い、進路指導部と各学年が協力して模試を運営する。教科とも連携し、事前・事後の指導を行う。
- ④ 教科で模試を分析し、模試分析会を実施し公開する。教科ごとに問題点を明確にして、授業改善に生かす。教科の情報を学年と共有し、進路指導に生かす。
- ⑤ 長期休業中の講習を進路指導部が統括し、教科が中心となって講座を設定する。余裕をもって生徒に提示し、積極的に参加させる。
- ⑥ 大学入学共通テスト後の講習を拡充し、生徒の一般受験を支援する。
- ⑦ PT主導で全学年の「総合的な探究の時間」を、計画的に全校体制で実施する。授業担当は各学年担任副担任とする。
- ⑧ 多様な生徒の進路希望に合わせ、就職希望者や専門学校希望者に適切な情報を提供し、個に応じたきめ細かな指導を行う。
- ⑨ 個人面談を計画的に実施する。保護者との面談（三者または二者）を全学年で実施し、家庭との連携を図る。
- ⑩ 進路報告会を開催し、進路指導の継続性を図る。

III 生活指導

目標 1、基本的な生活習慣の確立 2、交通安全意識の向上

方策

- ① 挨拶を励行して、コミュニケーションの円滑化を図る。
- ② 個々の遅刻状況を把握し、粘り強い指導で遅刻を減らす。時間を大切に、授業を大切に、けじめのある学校生活を送らせる。
- ③ セーフティ教室や生徒会活動を通して、「SNS東大和ルール」を認識させ、規範意識の向上を図る。
- ④ いじめ防止と体罰根絶に向けた取組を推進する。生命尊重と、多様性への理解を深め、豊かな人間性を育む。
- ⑤ 自転車通学でのヘルメット着用を徹底し、法令順守やマナー向上を通して交通安全意識を高める。
- ⑥ 地域と連携した防災訓練を実施し、防災意識を高める。

IV 特別活動・部活動

目標 1、部活動と学習の両立 2、帰属意識の向上

方策

- ① 生徒による実行委員会が主体となって学校行事、委員会活動を推進し、生徒の主体性を伸長させる。
- ② 「都立学校における部活動特別強化プロジェクト」の指定を受け、「部活動改革及び地域クラブ活動の推進等に関する総合的なガイドライン（東京都）」の内容を徹底し、すべての部活動が、合理的かつ効率的・効果的な活動を推進する。部活動と学習が両立できる時間を確保するよう、下校時刻を守らせる。
- ③ 部活動の活動計画を整備し、生徒が主体的に考える活動を推進し、Webサイトでの発信を強化する。
- ④ 生徒会や部活動を通し、地域と連携した活動を推進する。

V 健康づくり

目標 1、中途退学者ゼロ 2、感染症のクラスターゼロ 3、行事での怪我ゼロ 4、体力の向上

方策

- ① 特別支援教育コーディネーター、各学年、養護教諭、スクールカウンセラーの連携を図り、生徒支援委員会において、情報共有とともに、不登校、発達障害等での必要な支援策を講じる。生徒支援情報交換会を、学期に1回実施する。
- ② 支援の必要な生徒には、積極的に外部との連携を図る。
- ③ 「学校いじめ対策委員会」を中心として、いじめや暴力のない学校生活を継続する。
- ④ 都の指針に基づき感染症対策を継続する。
- ⑤ 授業や特別活動を通してスポーツに親しむ態度を育成し、体力を向上させるとともに、体力テスト、球技大会や体育大会を怪我ゼロで実施する。
- ⑥ 改築工事に伴うグラウンドの使用制限に際し、校外のグラウンドや施設を利用し、活動機会を確保する。

VI 募集広報活動

目標 1、本校第一志望者の増加

方策

- ① 総務部が広報活動を統括し、計画に従って全校協力の下、広報活動を行う。
- ② 学校Webサイト、学校インスタグラムを最大限活用する。タイムリーに更新し情報発信を充実させる。
- ③ 学校案内を改訂し、仮設校舎や新校舎の情報を取り入れる。
- ④ 授業公開、部活動体験、学校見学会、公開講座、施設開放等により、地域に開かれた学校を目指す。

VII 学校経営・組織体制

目標 1、企画調整会議と教科主任会議を軸とした一体的学校運営 2、学習環境の整備

方策

- ① 教科主任会議を定例で実施し、教科の指導力を強化する。
- ② 分掌が主体となって業務を計画し、分掌と学年が連携し、学年の差が無いよう3年間を見通した指導を行う。
- ③ 必要に応じて主幹会議を開催し、管理運営機能を補完する。服務事故防止研修を実施し、服務事故を根絶する。
- ④ 可能な限りの業務の効率化、業務削減を図る。部活動の顧問数を多く（一人当たりの顧問数を増やす）したり会計年度任用職員を増員したりして、教職員のライフワークバランスを推進する。
- ⑤ 生徒保護者との連絡、アンケートや提出物等、ネットワークを有効活用する。
- ⑥ 経営企画室が主体となって、分掌教科と連携し、適切に予算を執行する。施設設備を計画的に更新する。
- ⑦ 校舎改築に向け、仮設校舎建設を都と連携し遅滞なく進める。引越準備委員会を設置し、不用品の廃棄と引越、仮設校舎の使用について計画的に進める。

※数値目標（過去3年の推移）

	項目	R5	R6	R7	R8目標	
I 学習指導	授業満足度 肯定的評価の割合 (%)	82.1	81.9	86.7	87%	
	相互の授業見学 (述べ回数)	146	183	215	132回	
	英検 受験者 (延べ人数)	596	810	906	900人	
	2級以上合格者数	34	52	59	60人	
	図書貸出冊数	1008	879	1014	1100冊	
	自宅学習時間平日平均		19分	71.4分	1時間	
	2年		19分	70.3分	2時間	
II 進路指導	大学受験合格者数 国公立大難関私大	4	0	1	2人	
	GMARCH	12	6	11	12人	
	日東駒専	58	45	53	60人	
	大学入学共通テスト受験者数	94	135	131	136人	
	1月全国模試平均偏差値	45.0	42.9	42.2	45.0	
	1年国数英	43.0	43.5	43.2	45.0	
	2年英(文理)	46.1	44.2	45.2	45.0	
	国(文)	43.2	45.0	46.5	45.0	
	数(理)	33人	26人	34人	40人	
	2年国英歴 平均偏差値 50以上	7人	6人	17人	20人	
数英理 平均偏差値 45以上		28人	29人	30人		
3年7月 国英歴 平均偏差値 50以上		13人	12人	15人		
模試 数英理 平均偏差値 45以上						
夏期講習 講座開講数	35	42	45	45講座		
参加者 (延べ人数)	348	1385	1591	1700人		
保護者面談実施率	91.5	93.8	97.5	97%		
III 生活指導	遅刻年間総回数	4183	4417	4608	2000回未満	
IV 特別活動・部活動	特別活動における満足度	91.9	91.6	93.3	94%	
	部活動における満足度		87.1	91.3	92%	
V 健康づくり	中途退学者	4	3	1	0人	
	体力テスト全種目				全国平均以上	
VI 募集広報活動	学校説明会来校者数 (組)	610	465	462	650組	
	中進対倍率	1.31	0.99	1.00	1.30倍	
	入学者選抜応募倍率 推薦	3.25	3.45	2.82	3.00倍	
	学力	1.33	1.00	1.25	1.30倍	
	Webサイト更新回数	338	492	170	180回	

